

日本版ISAの道 その55

NISA本家・英国ISAの今(最新属性)～65歳以上で口座数が最も多く、金額も多く、最も高額の15,000英ポンド以上の積み上がりが際立つ～

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

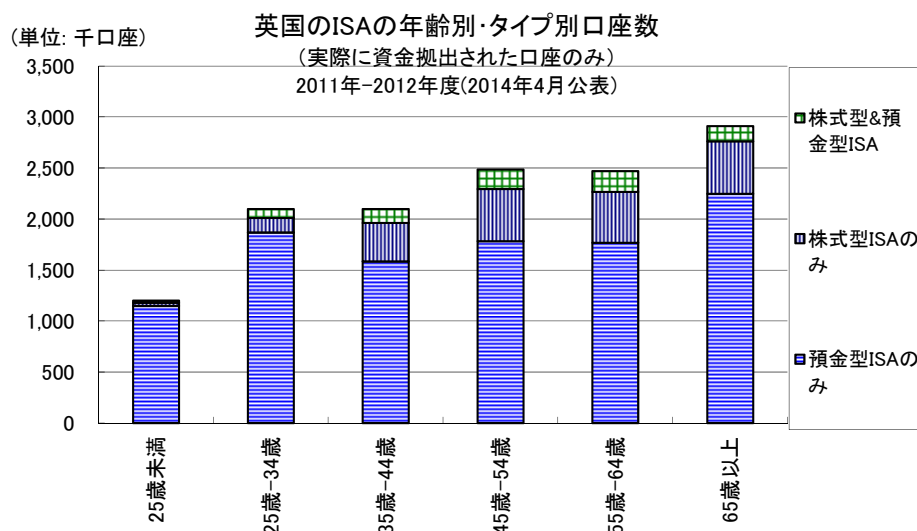
日本で「貯蓄から投資へ」の流れが広がりつつあるが、NISAの本家・英国では？

2014年5月13日付日本経済新聞朝刊に「主要証券10社が顧客から預っている資産は2014年3月末で約257兆円と、金融危機前の07年3月末を上回り、過去最高を更新した。株式相場の回復や少額投資非課税制度(NISA)の開始を手掛かりに、個人の投資意欲が高まったことが背景。『貯蓄から投資へ』の流れが広がりつつある。」と報じられていた。さらに「松井証券では『新規にNISA口座を開設した人の51%が投資の未経験者』としており、投資家の裾野が広がっている。」とも報じられていた。この様に、NISAの属性について各種アンケートや協会の調査により「貯蓄から投資へ」の流れ、投資家の裾野の広がりを示すデータが公表されているが、本家・英国ではどうだろう？今回は英国のISA(Individual Savings Accounts、少額投資優遇措置)の最新属性を見ることとする。

先月2014年4月に英国歳入関税庁/HM Revenue & Customs/HMRCから、英国ISA口座の拠出状況の詳細(年齢・金額・タイプ別など)が公表されている(URLは後述の[参考ホームページ]を参照)。これは英国ISA統計の一部として毎年1回発表されるものだ。ただ、統計の項目によって発表時期が異なっており、ISAの口座数や拠出額は7月、口座で保有する金融商品別残高は9月、そして拠出状況の詳細(年齢・金額・タイプ別等)は4月頃となっている。最新で2011-2012年度(2011年4月6日から2012年4月5日の1年間)と、既に2年前という過去の情報ではあるものの、1999年4月に導入後、約10年経過したISAが英国でどのように普及しているか、日本の今後を占う上でも大変貴重な情報と思われる。

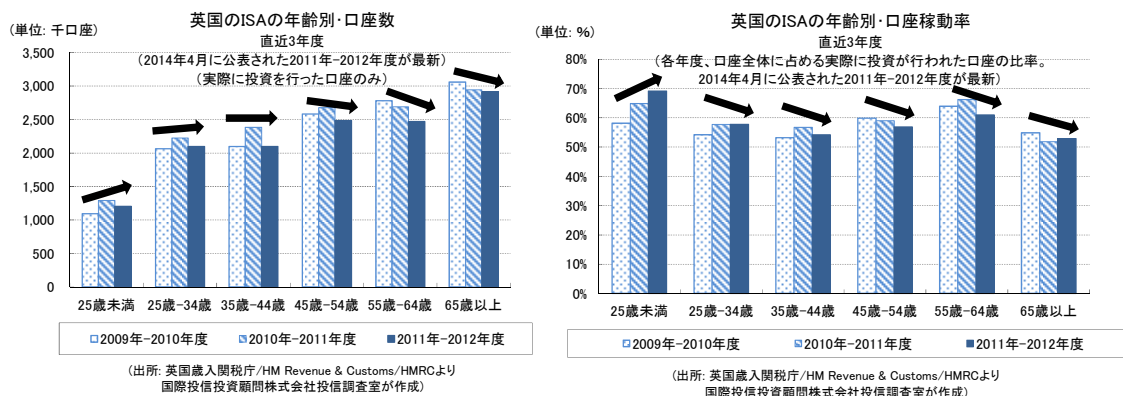
英国ISAは65歳以上で口座数が最も多く、金額も多い(稼働率は最も低い)

まず、英国ISAの利用者を年代別に見る。最新2011-2012年度の「英国のISAの年齢別・タイプ別口座数」を見ると、英国においてISA口座数では65歳以上が最も多く、次いで55歳～64歳と、年齢が高い方の口座が多い事がわかる。

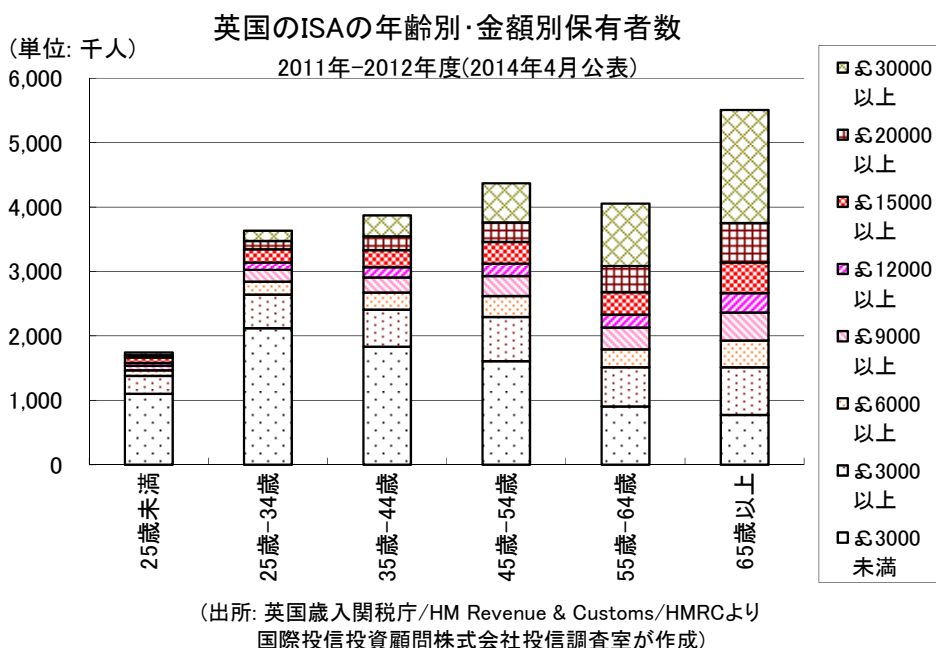


(出所: 英国歳入関税庁/HM Revenue & Customs/HMRCより
国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

ただISA口座を開いても、実際に投資していないで資金を寝かせたままのこともある。日本で「NISA口座で投信を売買する口座の稼働率は15～30%にとどまっております、運用の活発化が今後の課題だ。」(2014年3月25日付産経新聞朝刊)と報じられている通り、どれだけ稼働しているかが重要だ。そこで、口座稼働率とあわせて直近3年度の推移を英国で見ると、ISAを利用する65歳以上は口座数こそ最多であるが、その稼働率は53%とすべての年齢層でもっとも低く、口座数も稼働率も低下していた。一方、25歳未満は、口座数こそ少ないものの、足元で増えており、口座稼働率は70%とすべての年齢層で最も高く、上昇していた。ISA導入から10年経過後の英国において、投資の未経験者が多いと思われる25歳未満で投資家が増えており、65歳以上でむしろ投資が進んでいない傾向が見られた。



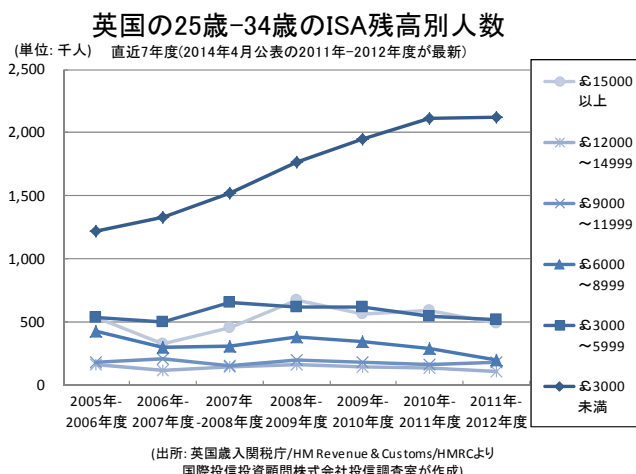
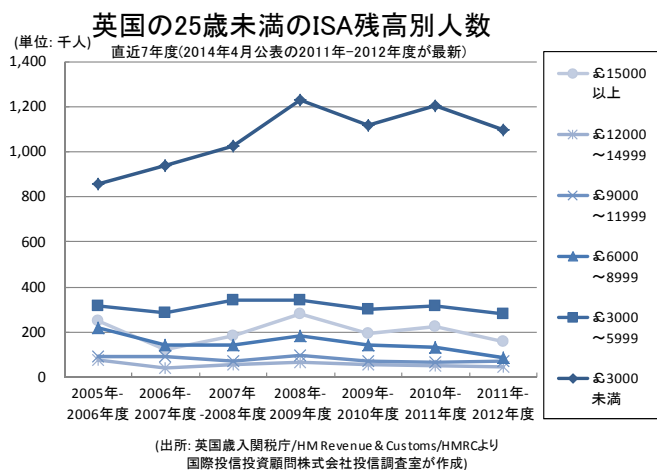
また、「英国のISAの年齢別・金額別口座数」を見ると、65歳以上が最も高額な資金をISAで保有している事がわかる。65歳以上の平均ISA保有残高は29,880英ポンド(約376万円*2011-2012年度の平均1英ポンド=126円で換算~以下同様)、最も小額なのは25歳未満で4,490英ポンド(約57万円)だった(2011-2012年度)。30,000英ポンド(約378万円)以上を保有している人は、65歳以上で3割(32%)、55歳~64歳で24%、45歳~54歳で14%、35歳から44歳で8%、25歳から34歳で4%、25歳未満で2%となっている。65歳以上や55~64歳が多い理由だが、ライフサイクルからして貯蓄がたまりやすくなる事、50歳以上が制度的に優遇されていた事などと思われる。



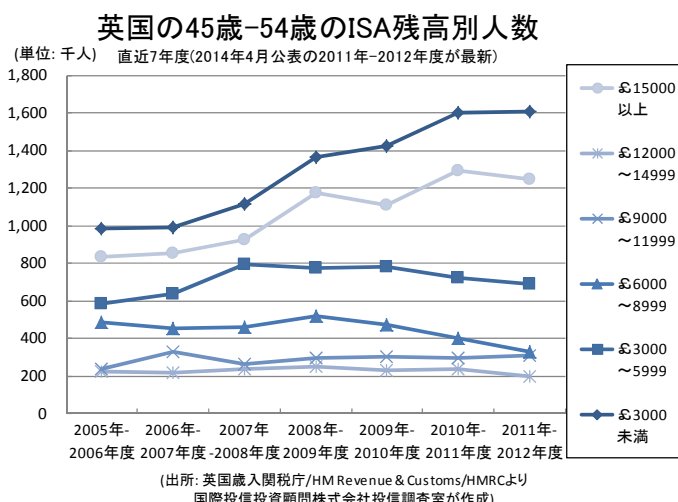
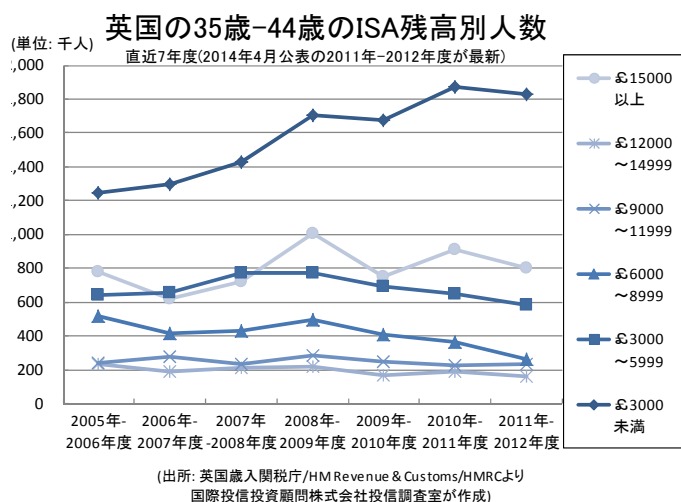
英国のISAは1999年4月から当初10年間の時限措置で非課税投資枠7200ポンド(約90万円)で導入された。2007年に制度が恒久化、2010年4月から非課税投資枠は年10200ポンド(約130万円)までとなったが(*現預金は年5,100ポンドまで)、50歳以上は先駆けて2009年10月から引き上げられた。

英国ISAは65歳以上で最も高額の15,000英ポンド以上の積み上がりが際立つ

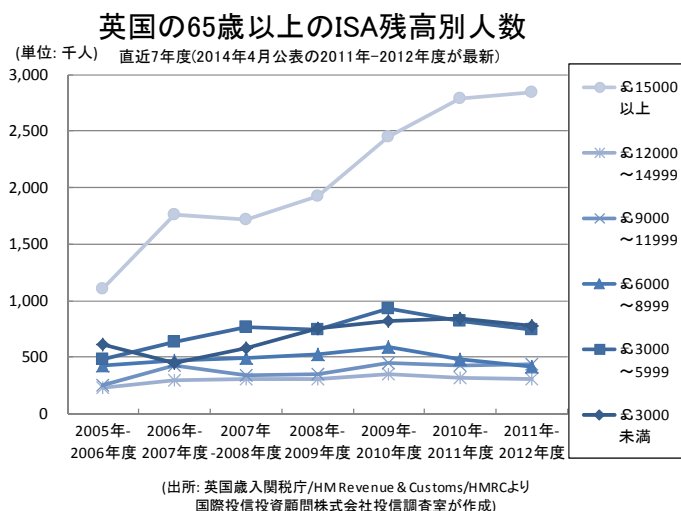
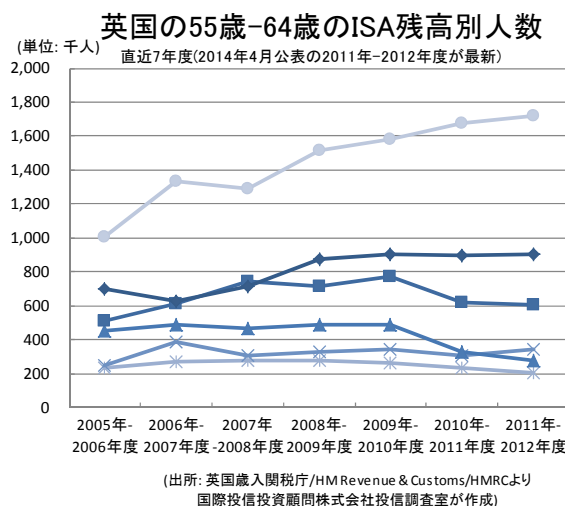
次に、各年齢層でISA資産がどう拡大しているかを過去7年度の推移で見る。30代前半までの若年層(25歳未満および25歳から34歳)は3,000英ポンド(37万円)の保有者が増加している一方、保有額が3,000英ポンドを超える人は少ないまま。「貯蓄より消費」、「貯蓄より借金」となりがちな世代なので、ISA口座を利用する人は増えているが、主に小口の投資家であり、一人あたりの保有額は2011-2012年度の平均4490英ポンド(約57万円)であり、増えていないようである。



35歳から44歳、および45歳から54歳は、先の35歳未満と同様、3,000英ポンド(37万円)未満の保有者が最も多く、右肩上がりに伸びている。45歳から54歳は最も高い額の15,000英ポンド以上が3,000英ポンドに次いで増えており二極化していることがわかる。



55歳以上は、最も高額な15,000英ポンド以上の保有者が伸びてくる。住宅購入や子育てにかかる経済負担がひと段落し、ISA口座での運用にお金を安定的にまわせるようになった世代。そして、65歳以上は最も高額な15,000英ポンド以上の積み上がりが際立つ。



以上、簡単だが、NISA 本家・英国 ISA の今(最新属性)を見た。英国 ISA は 65 歳以上で口座数が最も多く、金額も多い(稼働率は最も低い)、最も高額な 15,000 英ポンド以上の積み上がりが際立つことなどがわかった。日本でよく NISA については、若年層、資産形成層を中心に、と言う意見を聞く。もちろんそれは大事なことである。ただ本家・英国 ISA を見る限り、65 歳以上が英国 ISA の中心的存在であり、非課税投資枠について 50 歳以上は先駆けて拡大するなどの優遇も見られる。NISA という制度自体を拡大させなければ、若年層、資産形成層の為にもならないだろう。その意味で、NISA でも、思い込みなどは出来るだけ避け、本家・英国の事実(データ)をしっかり見て、日本の NISA の普及・拡大に役立ててほしいものだ。

[参考ホームページ]

「証券 10 社の顧客資産 257 兆円 3月末、NISA効果」…2014年5月13日付日本経済新聞朝刊

「http://www.nikkei.com/article/DGXNASGD1205G_S4A510C1MM8000/」、英国歳入関税庁/HM Revenue & Customs/HMRC の「Individual Savings Account(ISAs)」は「<http://www.hmrc.gov.uk/isa/index.htm>」、「NISAに集まった資金 大手5行、2カ月で860億円」…2014年3月25日付け産経新聞「<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/140325/fnc14032510330005-n1.htm>」。

以上
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。
 ○本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
 ○本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
 ○本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
 ○本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。
 また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。